



### 経営課題の解決パートナー

私の仕事を一言でいえば「経営課題の解決パートナー」。経営者の皆さまが、これまでやりたくても出来なかつた経営課題の解決を、経営者や社員の方々とともに「動く、協働スタイル」により、出来るように支援する会社です。単なるアドバイザーではなく、経営者の目線で現場社員を巻き込んで実行支援をおこなっています。よくコンサルタントなのか？と言われるのですが、私自身はコンサルタントという意識はなく、あくまでも「経営実行支援」経営者のお悩みや実現したいことを伴走しながら実現していくパートナーなのです。社名の「プライムムーバー」(prime mover)には、「原動力」、「推進力」などの意味があり、経営活動における変革の原動力、推進力でありたい、という私たちの願いを込めています。

### 多岐に渡る支援内容

経営実行支援という立場で仕事をしているので、対応する案件は多岐にわたります。大きく分ければふたつ、一つめが事業戦略サポート、わかりやすく言えばどうビジネスモデルを作るか、もつと儲かるモデルにするためにどうよくしていくか、そのための施策を着実に進め、事業の価値を高める支援です。二つめ

が財務戦略サポート、わかりやすくいえば会社のお金をどうまわしていくのか、どう調達するのか、どう効果的に活用していくのか、そのために必要な仕組みの導入などです。主にこのふたつの切り口で、生まれたばかりのスタートアップ企業から、上場企業や老舗、更には苦境にある企業の再生案件まで、様々な関与させて頂いております。その他には上場、非上場含め数社の社外役員をしたら

り、企業向けにセミナーを開催したり、大学院の准教授として会計学を教えたり(外国人中心のクラスに英語で教えたりなかなかタフです(笑)、自治体のアドバイザーや諮問委員を務めたり、その他いくつか新たな会社や組織の立ち上げに参加していたり、様々な立場で仕事をしています。経営や財務会計の専門性を軸にニーズに沿った形でサポートさせて頂く、この部分が強みなのではないか? と自分では考えています。

### 父の助言

私の実家は、戦後まもなく祖父が創業した金属・金型加工の工場を東大阪で経営していて、今は父が会長をしています。大正6年生まれで帝国陸軍の飛行機乗りだった祖父が戦争から帰ってきて、電球のソケットなどを卸すところから会社がスタートしました。父は祖父から事業承継をしたのですが、私は結果として事業を承継していません。

父には、「お客さんから、ありがとうございました」と感謝されるような仕事をしなさい」とよく言われました。下請け仕事の難しさや辛さ、また承継する難しさを父は感じていたのだと思います。また、父は子供のところから私に「会計士という資格があるぞ」とか

「アメリカにはMBAという経営を広く学ぶ場があり世界が広がるよ」といろいろな話をしてくれました。学ぶことの大切さや学ぶ機会に積極的なこと、の大切さを伝えようとしてくれたのだと感じます。

### 会計士を目指す

高校生くらいの時から将来をぼんやりと考え始めたのですが、父の言葉の影響もあり、手に職をつけた方がいいのかな、会計士なんか面白いかなと、関連がありそうな経済学部への進学を考え、都内の大学に進みました。当時の会計士受験生には大学と専門学校ダブルスクールで猛勉強にはげみ、在学中に合格するような人もいたのですが、私の場合はそれなりに東京での学生生活も満喫しており(笑)、結果的に卒業後に当時の公認会計士二次試験に合格したのですが、受験期間中も温かく支援してくれた家族には本当に感謝をしています。

### 監査法人での経験

試験合格後すぐにあずさ監査法人(当時は朝日監査法人)という大手監査法人の東京事務所に入社しました。上場企業を中心の監査業務や、その他M&Aのアドバイザーや事業再生案件などを担当しました。クライアントの事業所が日本全国にあるので旅行好きな私としてはいろいろな所に行くことができ、その土地の方々たくさんお話をすることができ、とてもよい経験をさせて頂いたと感じています。

監査法人で学んだことは「数字を通して経営を見る」ということです。決算書や管理資料の数字には会社の経営判断や事業の状況、企業文化などが反映されており、それらの数値と事業の現場や会社の方のお話を突き合わせ経営の実情を把握する、そういう姿勢は現在の仕事における強みとして生きていきます。

もうひとつはコンプライアンスの意識です。公認会

計士は職業的専門家としての職業倫理が厳格に規定されています。また公器として様々な法令を遵守することが求められる上場企業が主なクライアントであり、ルールへの感度は必然的に高くなります。これくらいでもないかな。というハードルが感覚的に一般の方と比べて高いのではと感じることがあり、この感覚も業務にあたりとても役に立っています。

### 米国大学院留学

7年働いたあと監査法人を退職し、アメリカの経営大学院(ビジネススクール)に留学しました。場所はテキサス州の州都オースティン、目的は経営理論を体系的に学ぶためです。

監査法人でそれなりに重要な仕事を何とかこなすことができつつあり、仕事に対する充実感もあったのですが、ある程度数年先の仕事が見えてくるようなところもあり、未知の環境下で新たな課題にチャレンジしたい思いが強くなりました。より自分自身を成長させられそうな負荷の高い環境を求めたという点だと思います。

経営はそれまで身につけてきた会計や財務管理だけではなく、戦略理論やマーケティング、人に接する組織マネジメントのスキル、交渉術などを組み合わせて成果を出すものであり、言わば総合格闘技のようなものだと思います。それらを体系的に学ぶには本場のアメリカかなと思いました。

